

(協働版)

※(協働版)とは…

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺において、地域のみなさまとの協働による景観づくりを進めるため、ヒアリングやまち歩きなどの取組を通じ、その地域固有の歴史的資産の特徴、まちの成り立ち、歴史、文化等といった地域ならではの情報や地域のみなさまの思いなどの情報を取りまとめたものです。

■桂東学区 下桂中桂周辺

凡例：

まち歩きやヒアリング
による情報等

文献等による情報

・桂の地
遣唐使として留学した橘逸勢(たちばなのはやなり)公が祭神である下桂御霊神社を産土神とし、平安の昔、京都の六つの入口に安置された六地藏尊の一つである地藏寺、市重要文化財の庭園がある極楽寺、由緒ある安楽寺など数多くのロマンをひめた歴史的遺産が多く残る。

・桂の地名
月の桂「日本書紀」(720年)以来の古地名「葛野(かつらの)」からくるといわれている。

桂離宮と寺社



1 桂離宮
八条宮家初代智仁親王がこの地に「瓜畠(うりばたけ)のかるき茶屋」と称する簡素な建物を営んだのがはじまり。「源氏物語」松風の巻にみえる「桂殿」のモデルといわれる。1-1),1-2)

桂離宮の書院は高床式で洪水対策されている。



2 桂垣
桂離宮庭園の東側外周の約250mにわたる竹の生垣で、5年に1度修復している。背後の竹林に生えているハチクを生きたまま曲げて、枝葉を編み込みながら下地となる建仁寺垣に固定していく。「桂垣」と背後のハチク林は一体となり景観を形成し、また、洪水用の堤防の役割がある。1-3)

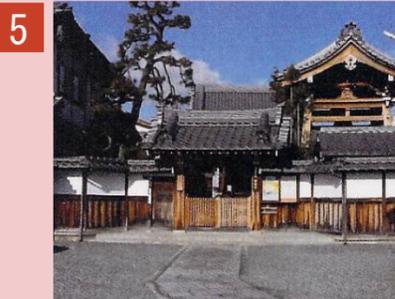


3 桂地藏寺
木幡山から一本の桜の木を切り出して、六体の地藏菩薩像を刻み此の地に納めた。桂地藏寺のご本尊は六体の中で一番大きく、「姉菩薩」とも呼ばれている。その後、京都の街道の入り口六ヶ所に六角堂を建て、一体ずつご尊像を分置された。1-1)

8月の地藏盆には盆踊り、夜店等でにぎわう。

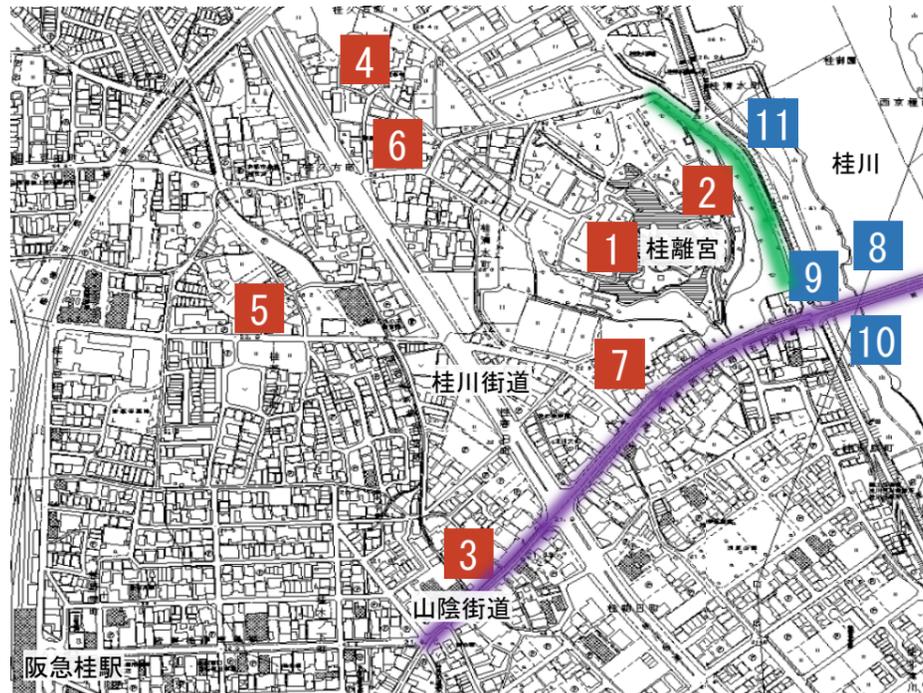


4 極楽寺
桂離宮の北西に位置し、かつては八条宮家代々の位牌所であった。本堂(1828年)など多くは江戸時代に建立された。江戸時代後期に多く見られる、築山林泉庭の様が良好に維持されているという点で、庭園文化史上貴重なものである。1-1),1-4)



5 安楽寺
1658年に建立された。鐘楼堂「報恩の鐘」は、1985年建立され、府内各宗派寺中最大と称される。1-1)

大晦日に除夜の鐘として親しまれている。道路沿いに建つ鐘楼は2階建てほどの高さが有り見事である。



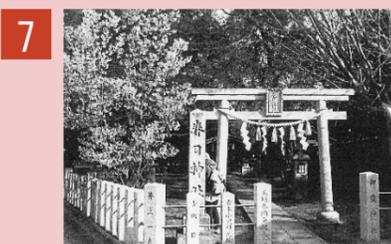
6 下桂御霊神社
貞観18年(876年)に建立された。御祭神は嵯峨天皇、空海と並び日本三筆と称された天下の能書家橘逸勢(たちばなのはやなり)。御神木は樹齢400年のムクロジの樹。1-1),1-4)



鳳輦(ほうれん)



ひょうたん神輿



毎年5月第3日曜に行われる例大祭。以前は、神輿ではなく鳳輦(籠の上等なもの)が地域を巡行し、お稚児さんも出ていたとか。近年はひょうたん神輿が境内を練り歩くようになった。

春日神社
下桂御霊神社の摂社。例大祭は、下桂御霊神社と一体で行われている。

桂川(歴史)



京都洛中洛外絵図 寛保元年(1741年)

8 桂川の上流から運ばれたものは丹波地方の木材を主とする林産業で、遡上したものは大阪方面からの塩、魚などの海産物であった。魚は横大路の港に、塩は「桂の渡し」西岸の船着場に陸揚げされ、山陰街道を丹波地方へ運ばれた。1-4)



9 桂大橋西詰北側灯籠
旧山陰街道「桂の渡し」の渡船と淀川を経て桂川を遡上してくる塩船のための灯台の役目も果たしていた。旧山陰街道の常夜灯としても昭和20~30年頃には毎晩火が灯されていたとか。



昭和2年撮影

10 桂大橋
平安時代から「楓の渡し」と呼ばれる交通の要所。明治22年(1889年)に初代の橋がかかる。それまでは渡し船で行き来していた。明治38年・昭和3年・昭和56年拡幅など3度の架けなおし工事があり現在に至る。1-1),1-4)

神幸祭

松尾七社の神輿が、ご本殿のご分霊を受けて、順次社頭を出発し松尾・桂の里を通って、桂離宮の東北方の桂川に到着後、各社の神輿は、桂大橋で渡らず、古来より続いている船で渡る「船渡御」にて、対岸へと渡る。



11 桂大橋徳大寺樋門
桂川の度重なる氾濫を防ぐために築かれ、桂川から離宮内庭園池に引き水するために利用していた。流域の都市化等の変遷により、平成5年(1993年)桂樋門の新設にともない廃止されることになり、その一部(遺構)が残っている。1-5)

桂東学区 下桂中桂周辺

凡例:

まち歩きやヒアリング
による情報等

文献等による情報

【周辺の特徴】

- ・桂大橋から西に向かう山陰街道沿いには、江戸末期から明治の建物が多く残る。
- ・山陰街道を少し外れると大正から昭和初期に建った木造住宅や土蔵が数件残る。
- ・神社やお寺の御神木や緑は大変美しく、行き交う人に安らぎを与えている。
- ・住宅が増えたおかげで地域には子供たちも非常に多い。通学時間帯も交通量は多いので日々地元の交通ボランティアの方々が活躍されている。

町並み・風景



山陰街道沿いに残る木造住宅
農家型住宅など
数多くの住宅が
残っており、当時の
町並みを想像させる。



中村軒
主屋は明治37年の建築。昭和4年に現在の桂大橋が完成し、それに伴い道路の高さが上がったため盛土による地上げと曳家を行った。
(数軒西側は当時のままの高さのため3~4m下方に建っている。)



地域に残る土蔵
桂川を利用して運搬し旧山陰街道付近で荷揚げした。塩や米などの物資を、納めておく場所としての土蔵が多く残っている。



明治22年 地形図

桂商店街
かつて、あらゆる生活用品がそろった京都でも有数の商店街として賑わった。
京都市立芸術大学の学生とも一緒に活性化への取組が行われていた。

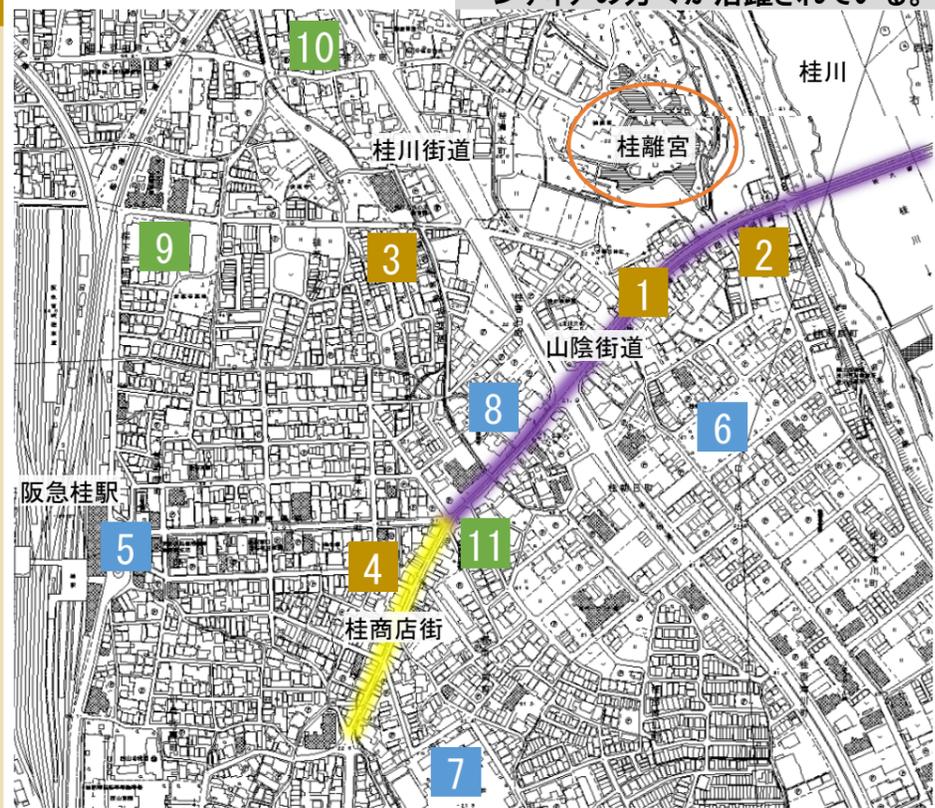


右手が桂大橋(昭和32年撮影)

以前は、桂大橋の西側にあった商店が、徐々に西へ移動していった。



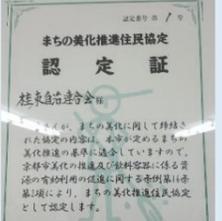
かつての桂商店街



地域コミュニティ・地域貢献

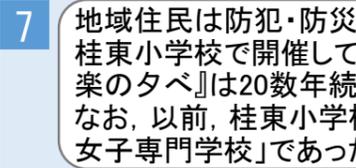


花いっぱい運動
花いっぱいの明るいまちとして、阪急桂駅中心に活動が盛ん。



春には浅原公園の「桂東さくら祭」にて地域の交流・親睦が行われている。

門掃き運動(清掃活動)を阪急桂駅東口と浅原公園で、20年以上継続実施。京都市認定第1号。



地域住民は防犯・防災の意識が高く、桂東小学校で開催している『防災と音楽の夕べ』は20数年続いている。なお、以前、桂東小学校は「京都府立女子専門学校」であった。



愛宕灯籠
桂地藏寺の山門の入り口に大きな灯籠がある。愛宕信仰は、一般庶民の間で籠(かまど)に祀られる火の神として信仰されている。この信仰は現在も受け継がれ、町内安全を願って有志が行燈に灯を入れている。1-1)

歴史・物語



桂会館(ダンスホール)
昭和8年許可制度により京都市内には43件の出願のうち、「桂会館」「東山ダンスホール」「京都ダンスホール(伏見)」の3ヶ所に限られた。1-4)



昭和初期、阪急桂駅東口の北側にあったダンスホール。珍しい鉄筋コンクリートの建物で当時最先端のおしゃれな社交場として人気を博した。
桂駅からダンスホールまでの約350mは舗装され、タクシーの行き来も盛んだったよう。



豆役場
現在のJAの所に役場があり、昔はこの村役場を豆役場と呼んでいた。

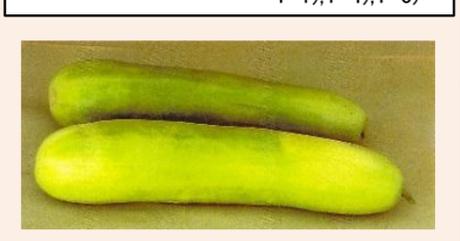


以前の消防署の火の見櫓から撮影 かつての消防署と交番 現在の消防署と交番

消防署・交番
昔は公共の建物を建てるということで地元の方から土地の提供があったとか…
現在も以前と変わらず隣接している。

特産物など

桂瓜
桂瓜は京野菜の1つで桂の特産物である。果肉が厚く歯切れが良いことから、奈良漬の原料では最良のものとして知られている。近年、桂高校の生徒さん達が種子保存に取り組んでいる。また、栽培だけでなくとまらず、スイーツを開発し販売もされている。
1-1),1-4),1-6)



桂飴
桂飴は、麦芽水飴と三温糖の上品な甘みで江戸時代の黒川道祐作『雍州府志』でも絶賛されているが、残念ながら、現在は閉店されている。
1-1)



桂女
桂川の鮎や桂飴、桂瓜などを都に売りに行っていた。大原女・白川女などとは着物の着付けや帯のかけ方など、それぞれに特徴がある。
1-1),1-4)



時めき! 新町商店街!!
新町商店街はかつて、あらゆる生活用品が揃う京都でも有数の商店街として賑わいました。数々の証言と共に当時のお店の並ぶ姿を再現してみました。

下桂中桂周辺

1-1 桂小学校／桂東自治連合会 創立50周年記念誌／桂東創立50周年記念事業実行委員会

1-2 下桂御霊神社誌 橘逸勢と空海／北川 あきら

1-3 013桂離宮庭園「桂垣」の基礎的調査／青木 達司

1-4 桂東学区自治連合会20周年記念／20周年記念事業委員会 記念誌編集委員会

1-5 桂離宮とその周辺の水害リスク／川崎 一郎，岡田 篤正，諏訪 浩，吉越 昭久，大窪 健之，向坊 恭介，大邑 潤三，高橋 昌明

1-6 京の伝統野菜／中村 安良